

筑波大学 人文・文化学群

日本語・日本文化学類

*College of Japanese Language and Culture
School of Humanities and Culture
University of Tsukuba*



伝えたい日本がある。

ようこそ、日本語・日本文化学類へ！



日本の教育界が小・中学校段階からコンテンツ・ベースの教育からコンピテンス・ベースへと大きくパラダイム転換しています。そのようななかで筑波大学においても学生本位の視点から大きく教育課程を見直しているところです。おりしも多文化共生化が進む現代日本社会のなかで、学術・教育・生活・文化に関わる諸課題を解決し、生存してゆくためには、目の前の現象から出発しつつも、現象のみにとらわれず、課題の本質を透徹しうる総合知が要求されています。わたしたちは日本語教育を基軸としてその問題を広く日本文化の課題として位置づけ探究することを通して、現代社会の諸課題の解決に立ち向かう能力を養成することを目的とします。

そのために、複数の分野の教員による授業科目を多く設けることで、ひとつの事象、

課題を多角的・立体的に考察する視点を提供します。とくに国際・協働の科目において、現実には生起する課題に対処する多様な具体的方策を実践的に学ぶことができるよう工夫をしています。

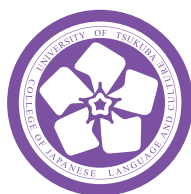
たとえば日本に関係の深い海外の、それほど遠くない過去に目をやることで、わたしたちが無意識に持っている固定観念が揺らいできます。いきなり地球規模的な視野を持つことは不可能ですが、まずは身近な異文化をどっぷりと体験してみることで、自己を構成するモザイクの変動が起こってきます。現今さまざまな局面においてこの社会は異文化を取りこむ必要に迫られています。そのなかで確実に存在していると思っていた「自己」も変容して行かざるをえません。そのような認識を持たず右往左往して流されたり、現実を目を背けたりするだけでは、ますますこの社会は住みにくいものになってしまいます。わたしたちはよりよく生きて行くために、多文化と共生する術を身につける必要があるのではないのでしょうか。

筑波大学 人文・文化学群
日本語・日本文化学類長

谷口孝介

Contents

学類長あいさつ	1
日日生からのメッセージ	3
教員からのメッセージ	5
カリキュラム紹介	7
日日生の授業紹介レポート	9
国内実習・海外実習・日本語教育実習	11
チューター制度・留学生	13
海外留学	15
卒業論文	16
卒業後の進路	17
まだまだ知りたい学類 Q&A	19
入試案内・アクセス	21



このロゴマークは、2004年に制定されました。学類関係者の公募により選ばれたものです。日本語・日本文化学類の通称「日日（にちにち）」から「日日草（にちにちそう）」を連想し、家紋風にデザインしたものです。日日草は、暑さに強く初夏から秋まで咲き続けます。また仲間の蔓日日草（つるにちにちそう）は冬の間も根が枯れず、大変繁殖力の強い植物です。花言葉は「生涯の友情」「優しい追憶」「楽しい思い出」です。



Our Message to the World

日日生からのメッセージ



日日の魅力は少人数体制!高校の一クラス程度の人数のため、教員との距離は非常に近いです。日本語・日本文化はもちろん、日本について学ぶ外国人の理解を深める授業をする先生もいます。(篠澤)

▶教員からのメッセージ (p.5)



「日本がどんな国なのか知っていますか?」と聞かれたとき、自信を持って頷くことができますか?日本はどんな歴史を持つのか、日本社会にはどんな問題があるのか、日本語はどんな特徴を持つのか、日日で学んでみませんか? (中島)

▶カリキュラム紹介 (p.7)



日本にいと「当たり前」に慣れてしまいがちですが、留学生はそんな私たちに新たな気づきを与えてくれます。日本文化を見つめ直すとともに、新たな文化に出会ってみませんか? (大沼)

▶チューター制度・留学生 (p.13)



海外には教科書では学べない事がたくさんあります。私が行ったボリビアは、日本語教育情報も少なく、現地に行けたことが大きな成長に繋がりました。留学は、海外で日本語を教えたい人にはもってこいの機会です。(総井)

▶海外留学 (p.15)

じっくり日本文学を読むと、その時代が見える!日本の古典作品の言葉一つ一つから当時の人々の暮らしや考え方を探り出すことができます。日日の授業で、一緒にその奥深さに触れてみませんか? (橋本)

▶日日生の授業紹介レポート (p.9)



普段私たちが使っている日本語ですが、実際に学んでみると新たな発見で満ちあふれています。日本語の授業で学んだことが、日本文化や日本語教育等、別の分野につながっていることも多々あります。(百留)

▶日日生の授業紹介レポート (p.9)



自然を趣深いと感じる私達の感性は、過去から脈々と受け継がれています。例えば、1000年以上前に編まれた『万葉集』を読み解くことで、私たちと同じような自然を愛する人々を見ることが出来ます。過去の人々と自分を重ねながら古典の世界に浸ってみましょう! (竹下)

▶卒業論文 (p.16)



日日には、国語科教員・公務員・企業・海外の大学院進学や日本語教師等、様々な領域で活躍している先輩がいます。学類の授業で学んだことをどんな形で将来に活かしていくか、一緒に考えていきましょう! (中島)

▶卒業後の進路 (p.17)

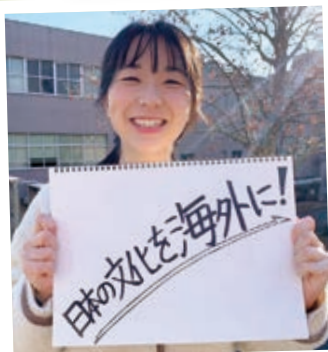


机で書物と向き合うことは大切ですが、それが大学の学びのすべてではありません。日本語や日本文化を学ぶためには、日本中を歩き、各地で生きる人から話を聞くことが重要です。日本に息づいている文化、生きている日本語を学ぶべく、大学を飛び出してみましょう。(瀬邊)

▶国内実習 (p.11)

「日本語ではこのように言います。」「日本にはこのような文化があります。」「当たり前」を再認識し外に発信することで、「日本」の輪郭をより濃くしていく経験ができます。海外の現場で新鮮な学びを得たい方にお勧めです。(岡)

▶海外実習 (p.11)



今まで勉強してきたことをちゃんと生かせるのか自分の力試しがしたい!と思っていた私に、「日本語教育実習」は求めていた環境をくれました。教育関係で勉強したいと思っている人、誰かに何か教えてみたいと思っている人はぜひ! (マルガド)

▶日本語教育実習 (p.11)



大学では、日日の授業に限らず、他学群の授業も受けることができます。自分の学類で興味のある分野の学びを深めるだけでなく、他学群の授業から新たな視点を得ることで、様々な面から日本を見つめ直すきっかけにもなります! (前川)

▶Q&A 学習編 (p.19)

大学内に循環バスが通っていたり、移動は自転車が普通だったり、宿舍で友達と夜遅くまで集ったり、数々の学食を渡り歩いたり、芝生でのんびり過ごしたり...etc. キャンパスライフをのぞいてみれば、筑波大「あるある」が盛りだくさん! (坂本)

▶Q&A 生活編 (p.20)



教員からのメッセージ



石田 尊 ISHIDA TAKERU

日本語学・eラーニング
Japanese linguistics / e-learning

日本語における他動性（他動詞らしさ、他動詞文らしさ）や、受動文などのヴォイス現象に特に関心を持ちつつ、日本語の文法を研究しています。授業では日本語の歴史や方言も扱っています。日本語はどういう言語か、どうして今のような姿になったのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



今田 水穂 IMADA MIZUHO

日本語学・コーパス言語学
Japanese linguistics/Corpus linguistics

我々は複雑な思考や情報を、いかにして限られた単語の列で伝達するのでしょうか。また、ごく限られた単語の列から、いかにして複雑な情報を取り出すことができるのでしょうか。我々がどのように思考を言語化し、伝達を効率化し、意味を解釈するのか、言語と意味の関係について考えています。



入山 美保 IRYAMA MIHO

日本語教育学
Japanese language education

Japan-Expert（学士）プログラム日本語教育コーディネーターをしています。研究テーマは、中央アジアにおける持続可能な日本語教育支援です。非母語話者学生が日本の文化・社会を理解し、母国の日本語教育を牽引する専門的な日本語力、知識を持った人材になるにはどのようにすべきか考えたいと思っています。



江口 真規 EGUCHI MAKI

日本近現代文学・比較文学
Japanese modern and contemporary literature / Comparative literature

研究テーマは、日英文学作品における動物の表象（特に羊）と、その理論的枠組みとなる「アニマル・スタディーズ」です。授業では、翻訳や動物といったテーマから、日本文化を相対的・客観的に捉え、異文化を背景とする人々に伝える知識と力を身に付けてもらいたいと思っています。



小野 正樹 ONO MASAKI

日本語教育学・日本語学
Japanese language education / Japanese linguistics

日本語を中心とした言語表現と言語行動との関係を、ポライトネスの観点から見ています。世界の日本語教育に関心があり、中でもウズベキスタン・カザフスタンなどの中央アジア地域との交流や、オンライン日本語教材開発にも取り組んでいます。



葛西 太一 KASAI TAICHI

日本上代文学
Ancient Japanese literature

誰にでも理解できる説明が好まれる一方、誰にでも共通する価値観は成り立ちません。言語や文学を学ぶ意義の一つは、理解できないものに向き合う方法を学ぶことにあります。古典籍に残された文字や表現を手掛かりに、自文化や異文化の多様な「癖」や「変」を発見しましょう。



金 仁和 KIM INHWA

韓国語学・対照言語学
Korean linguistics / Contrastive linguistics

語彙分類の方法は、文法、意味、語用的用法等、目的により様々です。意味派生からの分類も興味深いです。例えば、擬声語・擬態語等で二つ以上の感覚の意味を持つ語彙の分布を韓日で比較すると、両言語の相違点が文化の影響面から理解でき、文化と関わる言語の特性がよく分かります。

日本語・日本文化学類は、
ひとつの事象や課題を多角的に考察する力、問題発見・課題解決のために実践する力、そして、多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していける力を有する、文化の創造者たる人材を養成することを、教育の目標としています。

すべての学生が、日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養えるように、学際的な専門科目を多数用意し、様々な専門領域の教員が、みなさんをお待ちしています！

受験生の皆さんへ



澤田 浩子 SAWADA HIROKO

言語学・音声コミュニケーション研究
Linguistics / Speech communication studies

私たちが生きて、生活していくうえで、他者とのコミュニケーションは避けて通れません。人間が社会で生きるとはどういうことか、ことばの側面から考えていきたいと思っています。授業では、夏休みに学生たちと一緒にフィールドワークに出かけ、地域の言語生活の調査をしています。



杉本 武 SUGIMOTO TAKESHI

日本語学・コーパス言語学
Japanese linguistics / Corpus linguistics

日本語の動詞に関わる文法現象を中心に研究しています。コーパスと呼ばれるコンピュータ上の大量のテキストデータを用い、実際の用例を見ながら、動詞の意味が文の組み立てとどう関わるか、例えば、なぜ「嫉む」は「才能を嫉む」で、「嫉妬する」は「才能に嫉妬する」となるのか、等を考えています。



鈴木 伸隆 SUZUKI NOBUTAKA

文化人類学
Cultural anthropology

文化人類学は、人びとの生活そのものを調査研究の対象としています。非常に間口が広いことが特徴です。人間が対象を捉える眼差しは、いろいろな欲望や偏見に満ちています。人やモノが世界規模で移動する時代だからこそ、自分を相対化する人類学的な視点は重要です。



谷口 孝介 TANIGUCHI KOSUKE

中・日比較文学
Comparative literature between China and Japan

大学で学ぶ意義の第一は、「教養（リベラル・アーツ）を身につける」ことにあります。真の教養とは、人生におけるさまざまな判断の機会に断固として決断できるバランス感覚だと思います。古代の文学を研究していると、学問が細分化される以前の、理想的な教養人が存在することにしばしば驚かされます。



朴 宣美 PARK SUNMI

近現代日朝文化交流史・ジェンダー史
History of cultural exchange in modern Japan and Korea / Gender history

私は、社会文化史・ジェンダー史の視点から近代日本や朝鮮を考察しています。19世紀末から20世紀前半において、朝鮮から日本へ、日本から朝鮮へ渡った様々な人々（特に女性たち）の移動を明らかにし、それによって生まれる新しい考えや「知」について研究しています。



松崎 寛 MATSUZAKI HIROSHI

日本語教育学・音声学
Japanese language education / Phonetics

日常生活で外国人と触れ合う機会が本当に多くなりました。一部の日本語教育関係者だけで生活者・年少者教育の様々な問題を議論・支援していた時代は終わり、これからは幅広く知見を共有し、行動し、一人一人が共生社会を良くする素養を高めてゆく必要があります。その研究をしています。あと、発音も研究しています。

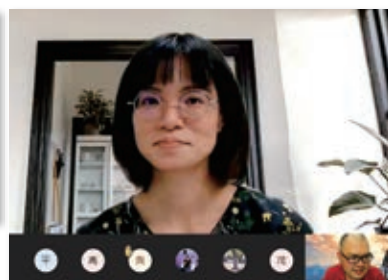


渡部 宏樹 WATABE KOHKI

映画メディア研究
Cinema and Media Studies

資本主義社会における文化・芸術に特にその受容（消費者／観客／市民）に注目して研究しています。「専門英語」では日系アメリカ人の歴史や明治の日本人が書いた日本論を通して日本について学ぶ授業を行っています。一方、「表象文化論」では主に視覚メディアにおける表象を分析する手法や理論を教えています。

カリキュラム紹介



教育の目標と特色

筑波大学学士課程の教育目標および本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（文学）の学位が授与されます。

- グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と探究能力・研究手法とを修得している。
- 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる言語運用能力、情報処理能力および異文化コミュニケーション能力を身につけている。

本学類では、世界の諸言語の一つとして日本語をとらえ、言語学的に研究するための専門的知識や的確な分析力、そしてそれを外国語として教えるための方法を身につけることを目標としています。

日本語を話している私達は、「あれは筑波山です」「あれが筑波山です」とを無意識の内に使い分けています。けれども、この「は」と「が」とは、いったいどこがどう違うのかと聞かれると、ちょっと困ります。すぐにうまく答えられる人などそうはいません。

日本語を外国人に教える時には、自分には分かりきっていることであっても、それをひとつひとつ丁寧に教えていかなければなりません。そして、そのためには、日常何気なく使っている日本語をよく観察し、客観的に分析する習慣をつけないければなりません。

また、日本語教師や国際的業務に携わる人は日本文化の伝達者であることを求められます。同時にそのような人は、日本にとっては異文化交流の窓口であり、これまで日本列島に住んでいる人々が築いてきた文化を基礎に、異文化との接触を通して新しい文化をつくっていくうえで、大きな役割を期待されています。すなわち日本文化の創造者でもなければなりません。

文化とは、私達が生活のなかで表現するものすべてを含みます。思想、芸術、文学はもちろん、政治、経済、教育などすべての社会現象や日々の生活のありかたそのものが文化です。また、日本文化は孤立して独自に形成されてきたものではありません。これまでの異文化交流がどのように行われてきたのか学ぶことも必要です。

国際・協働科目においては、現実には生起する課題に対処する多様な具体的方策を実践的に学ぶことができます。また、海外で実施する国際研修や日本語教育インターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。

授業内容

育成する能力とカリキュラムの構成

		1年	2年	3年	4年
専門科目	総合的な分析能力と問題発見、解決能力の統合			総合演習導入 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ	卒業論文演習Ⅰ 卒業論文演習Ⅱ 卒業論文
	多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる能力		国際・協働科目群： 共同研究、対話実習、教育実習、フィールド実習、国際研修、企業研修、インターンシップ		
	グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識		日本語科目群： 日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、日本語の語用論、言語と文化、コーパス言語学、ほか 多文化共生・日本語教育科目群： 日本語教育文法論、日本語技能指導論、日本語教育心理学、海外の日本語教育と日本学、多文化の中の日本、ほか 日本文化科目群： 表象文化論、近代日本の文化交流、日本の宗教と芸能、世界文学と日本文学、国語科教育と文学、中国文学と日本文学、ほか + 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門科目		
専門基礎科目	日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する基礎的な知識と明確な問題意識の醸成	日本語教育学特別演習、海外語学研修			
			専門英語A,B,C		
		日本語・日本文化研究法、概論科目 + 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門基礎科目			
		学際科目			
基礎科目	広い視野からの専門分野の発見と位置づけ	共通科目			
		関連科目			

1年次

- 共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

2年次

- 専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。
- 実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。
- 専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。

3年次

- 実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、解決のための応用力・実践力を向上させます。
- 演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。
- 専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となる総合演習は、各教員の専門性を生かしつつ複数教員がグループ指導を行うもので、これにより、ひとつの事象、課題を多角的・立体的に考察する力を身につけます。

4年次

- 卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

日日生の授業紹介レポート

STUDENTS REPORT

日本語方言論【石田 尊 先生】

主に方言文法を扱うこの授業では、方言における文法には地域差があるということ、先生が興味深い例を交えて解説してくれます。また、世代によって各地域で方言がどのように変化しているのかについても、学ぶことができます。実際の地域方言に基づいて説明をしてくださるため、とても分かりやすく親しみやすいお勧めの授業です。

(橋本 かほり)



日本語教育学特別演習【入山 美保 先生】

日本語教育に必要な知識が習得できているかを検定する試験として、「日本語教育能力検定試験」が毎年1回行われています。この授業で、自分で問題の解説をしたり他の人の解説を聞いたりする中で、試験に必要な知識だけではなく、よりよい伝え方についても学ぶことができました。そして、私も実際の日本語教育能力検定試験に合格しました！

(鎌田 真凜)



日本語の語用論【小野 正樹 先生】

会話で相手との距離の取り方を難しく感じたことはありませんか？これは留学生も感じる問題です。相手により大きく態度を変えるのは良くないですが、誰に対しても同じ言葉遣いをするわけでもありません。この授業では、語用論の論文や生データから様々な文化の「配慮表現」の特徴を探り、円滑なコミュニケーションについて考えます。

(黒須 珠実)



日本語・日本文化共同研究II【今田 水穂 先生】

留学生と日本人学生でグループを作り、日本語の敬語表現や時制などの文法形式に着目して研究を行い発表します。日本語に関する理解はもちろん、留学生の母語との比較も行うので、他言語・他文化への理解も深まります。留学生が日本語学習過程でどのような部分を理解しづらいのかもわかるので、日本語教育学にも繋がる授業です。

(前田 愛)



日本の文学概論【江口 真規 先生】

この授業では原作と翻訳された作品の比較を通じて、客観的な視点から日本文学・日本文化を見つめ直し、理解を深めていくことを学びます。純粋に文学作品を楽しむのも一つですが、作品が翻訳された時代や政治的背景、さらに海外に示された日本文化を知ることで、今まで見えてこなかった日本文化が見えてくるかもしれません。

(櫻井 彩乃)



言語と文化II【金 仁和 先生】

辞書での多義語を対象に、意味派生の方向を分析する授業です。例えば、「腰」という言葉は体の一部を表しますが、他にも「腰のあるうどん」のように「粘りや弾力」という意味を表すときもあります。ある単語の複数の意味がどんな関係性にあるか、どう派生したのかななどを、提示された基準や方向性にならいながら考えるお勧め授業です。

(御子 歩美)



世界の言語と日本語【澤田 浩子 先生】

世界には「木の右側」を「木の北側」と表現する言語があります。こうした表現は、人々の考え方にどう関係しているのでしょうか。この授業では、世界の言語と日本語を対照することで、言語の多様性や普遍性を学びます。日本とは異なる他言語の特性を知ること、自分の言語に関する常識を柔軟にしましょう。

(中島 理子)



文化の伝流と複合実習【谷口 孝介 先生】

東大寺や法隆寺などを紹介した平安時代の文献「七大寺巡礼私記」をテキストに、奈良の古刹について学びます。当時の姿と現在の姿を比較することで、主に仏教や寺院の建築様式について造詣を深めます。希望者のみ、授業で紹介された場所を2泊3日で見学旅行します。仏像が好きな人には受講おすすめ。ただし授業内容は毎年少し変わるので、要確認。

(中村 瑞歩)



第二言語習得論【松崎 寛 先生】

日本語を学習する外国人が「リンゴが好きくない。」と言ったら、どう指摘しますか？ 外国語学習に間違いはつきものですが、それには必ず原因があります。この授業では、「どうして間違うのか」をもとに「どう教えるか」を学びます。外国語学習過程を客観的に学べるため、教師を目指す人はもちろん、言語に興味のある人にも面白い授業です。

(笹原 すみれ)



現代日本社会概論【鈴木 伸隆 先生】

「日本の雇用形態がどう変化してきたか」「日本人の結婚に対する姿勢」など、現代社会でトピックに取り上げられることの多いテーマについて、データを用いながら授業が行われます。主に留学生対象のため、授業はすべて英語です。鈴木先生はどんな疑問に対しても真剣に向き合ってくださいるので、質問をしやすい環境が整っているところもおすすめです。

(立石 すみれ)



近代日本の文化交流【朴 宣美 先生】

戦前の日本人と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか。戦争映画で描かれる、被害に苦む民衆の姿でしょうか。しかし当時、人々は皆国内に留まっていたわけではなく、移住、侵略、その他様々な理由で、日本を出て移動を繰り返してきたのです。人の「移動」に注目しつつ近代史を見直すことで、あなたの歴史観も揺さぶられるかもしれません。

(新井 可奈代)



表象文化論【渡部 宏樹 先生】

何気ない道路が聖地に。ハム太郎がタイ反政府デモの象徴に。ゴジラは東京大空襲？ 世界は表現を生み出す人と受け取る人の相互作用から生まれます。これらは全て「表象」の力なのです。授業では、事例を観察しながらこの仕組みについて考えます。正解はありません。自分の疑問や感覚を言語化し、話し合う中で世の中の見え方がいつの間にか変わる、それが醍醐味です。

(張山 紗彩)



国内実習・海外実習・日本語教育実習

国内実習

ひとくちに日本文化といっても、自分が育った環境だけが日本文化ではありません。教室を離れて実際に現地を訪ねることで、それぞれの地域に根差した多彩な生活・文化と人々の存在に触れることができます。



- フィールド実習（「日本語方言研究フィールド実習I/II」）
- （「日本語談話研究フィールド実習I/II」）
- （「日本文化研究フィールド実習I/II」）

体験記

日本語方言研究フィールド実習



みなさんの地元にはどのような方言があるでしょうか？日日は全国各地から学生が集まってくるということもあり、様々な方言に触れることができます。例えば、「孫に本をやる」という表現は、茨城県常総市では「本をくれる」ようになります。自分はそのことに興味を持ち、現地で実際に調査を行い、そのような変化が生まれた要因についての考察を行いました。聞き慣れない方言を正確に聞き取り、記録を行うなど、難しい点多々ありましたが、先生の手厚い指導や、学生同士で話し合うことなどを通じ、方言について考えるうえで非常に有意義な一週間を過ごすことができます。実習が終わるころには、自分自身も少しではありますが、常総市の方言を話すことができるようになりました。

（百留 隆人）

日本語談話研究フィールド実習



愛知県豊田市足助に1週間ほど滞在し、それぞれが定めたテーマに基づいて調査を行いました。自分は、聞き手行動や談話の構造に興味をもち、道を尋ねて教えてもらう際の談話の特徴について調査を行ったのですが、実際に談話を分析しないと見えてこないことが調査を通して明らかになっていく過程に、楽しさを感じました。現地調査以前に講義で説明があったことについて、実感することで消化しやすくなり、テーマ以外に関しても、現地の方々のお話を通して、知見を大きく広げることが出来ました。事前学習や指導教員の支援のもと、自分の興味をどう発展させればよいか、などの質問に丁寧に答えていただけるので、大変なところもありますが、経験として非常に力になる実習だと思います。

（山口 航平）

日本文化研究フィールド実習



日本文化研究フィールド実習は、日本国内の特定地域に数日間滞在し、その地域の文化や歴史・生業について調査を行う授業です。これまでは愛知県豊田市足助や京都府舞鶴市が調査地となりました。観光業の様子や特産品の現状、交通サービス、祭礼、農業振興など、自身の関心に沿うテーマを調査者自身が考え、そのテーマを明らかにするために適切な調査方法や調査先を教員と相談しつつ設定します。現地では、地域を歩いたり施設を巡ったりするだけでなく、聞き取り調査等の踏み込んだ調査を行い、地域で生活されている方々の声や地域の実情の詳細な把握を試みます。学外に出て調査を行う経験を得て、資料では得られない情報を基に考える力を養う、意義のある実習です。

（佐藤 久信）

海外実習

本学類では、実践性と国際性を重視し、海外で行う実習の科目「国際科目」を提供しています。日ごろ教室で学んだ知識を異言語・異文化を背景とする人たちとの交流の中で見つめなおすことにより、異文化理解、国際交流を身をもって体験することができます。



- スロベニア実習（「日本語・日本文化国際研修I/II」）
- 韓国実習（「日本語・日本文化国際研修III/IV」）
- マレーシア実習（「日本語教育国際研修I/II/III」）

体験記

スロベニア実習



「日本文化とは何か」考えたことはありませんか？この実習では、現地へ行く準備期間にスロベニアや日本語教育についての知識を深め、現地で言う日本についてのプレゼンを半年かけて準備します。この半年間は自分にとって、自国の文化とは何かを問い直す良いきっかけになりました。

実習中は現地の学生と交流する機会もたくさんあります。彼らの授業に参加したり、スロベニア語を教えてもらったり、プライベートでご飯に行ったりなど...新しい出会いであふれています。たった3週間の海外経験でも、もしかしら自分の人生が変わるかもしれません！美しいヨーロッパの小国で自分の視野を広げてみませんか？ちなみに私はこの実習がきっかけで、半年間スロベニアに留学しました！

（館野 みなみ）

韓国実習



日韓問題への理解を深めるためソウルや釜山、大邱等の都市で様々な施設を訪れ、自らたてたテーマについて調査を行います。近年、日韓関係の報道を目にすることは少なくないですが、深く考えたことはあるでしょうか。実習ではハルモニや現地の活動家がどのような想いで活動しているのか、同年代の高校生・大学生が日韓関係、日本にどのような考えを持っているのかを知ることができます。メディアやネットの情報ではなく、実物や生の声に触れることはなかなか経験できません。直接見聞きし、経験することは多角的な視点や自分の考え、意見に繋がることでしょう。日韓問題に関心がある人も、考えたことのない人もとても密度の濃い時間、経験を得ることができるはずです。

（佐伯 佳乃）

マレーシア実習



「日本語をもっと勉強したいの！」...そう学習者に言ってもらえることが、ここまで嬉しいとは思いませんでした。日本のことをもっと学んで、発信したい。そして同時に、日本以外の国の事を、私ももっと教えてほしいと強く感じました。マレーシアと日本は、言語も宗教も、価値観も異なります。交流する上で全く困難がなかったとは言いませんが、大切なのは、分かり合おうとする素直な気持ちだったと感じています。「他国に触れ、自国を再認識し、多様性を認め合う」という、国際交流において重要なプロセスを経験することができました。実習の時に会った友達とは今でも連絡を取り合っています。一歩踏み出せば、そこには新たな出会いと学びが広がっていますよ！

（丸山 陽菜）

日本語教育実習

本学類は、日本語・日本文化を総合的・相対的にとらえ、異文化を背景とする人々に適切に発信できる知識と能力を身に付けた人材を育成するという教育目標のもと、日本語教育に力を入れています。



- 国内教壇実習（「日本語教育実習」）
- 国内企業研修（「日本語教育企業研修」）
- 遠隔日本語支援（「外国人児童生徒支援実習I/II」）

体験記

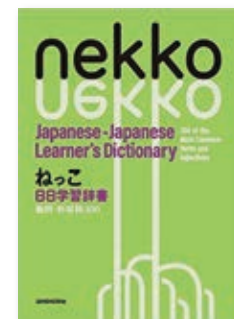
国内教壇実習



教材や教育方法について学んだ後、実習生が主体となって教壇実習を行います。1日30分×3コマの授業を実習生が担当し、中上級レベルの留学生に対して食文化と旅行文化について教えました。ただ日本文化を知ってもらうだけではなく、その活動を通じてどのような力を身につけてほしいのかを考え、先生方の丁寧なご指導のもと授業を組み立てていきました。教案を何度も練り直したり反省点について話し合ったり、大変だと感じることも多かったですが、その分、学習者が楽しんで授業に参加してくれたり教えたことを使ったりする様子を見ると、達成感や喜びを強く感じました。こうした活動を通じて、日本語教育や教師の姿勢について学ぶことができ、今後のための力が得られる実習です。

（大木 知世）

国内企業研修



私は国内企業研修の一環として、三修社の方と共にインターンシップ形式で実習に参加させていただきました。内容としては主に日本語学習者向けの辞書編集に携わり、辞書に掲載する例文を作成することを中心に行いました。その他にも普段から書籍の編集・出版に関わっている方とのセッションにも参加したり、辞書の語義作成会議を見学したり、普段は体験できないようなことを味わえる貴重な機会でした。日本語教育における教材に込められている思いや学習者目線で物事を考えることはとても歯ごたえのある経験でしたが、企業の方や学生同士の打ち合わせを行う中で色々な価値観や日本語学習者への思いを直接的に体感でき、自身の成長に繋がりました。

（富田 康平）

遠隔日本語支援



この実習では、茨城県内の中学校に通う外国人生徒に対して、インターネットを通じた日本語支援を行います。支援は基本、生徒1～2名に週3回、大学生サポーターチーム2～3名で行います。各自、授業計画を立て、プレゼンテーションソフトやホワイトボードを活用して教材を準備します。毎週、試行錯誤しながら教材を用意して、実際に支援を行うことはとてもやりがいがあります。支援の内容は、生徒一人ひとりに合わせたものとなっていて、日本語の基礎から教えることもあれば、数学や社会等の教科との統合を行うこともあります。

「日本語を教えるってどんな感じかな？」を体験できる授業なので、将来、日本語教育の道へ進むことを考えている人にとっては、特にオススメの授業です！

（眞保 温妃）

チューター制度・留学生

チューター制度

留学生が日本で不便なく生活が送れるように、個人レベルで支援を行うのがチューター制度です。日本語・日本文化学類ではこのチューター制度の活用を力を入れており、多くの学類生がチューターとして留学生の支援に関わっています。

チューターの具体的な役割は、留学生の学習・研究の補助（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語学習の支援、日常生活のサポート（学内外の案内、諸手続きのための市役所等への同行、買い物の補助）などを行うことです。また、歓迎パーティーや交流パーティーなども企画し、親睦を深めています。チューター制度は決して日本人学生から留学生への支援という一方向的なものではありません。日本人学生もチューターを経験することによって、日常的な交流の中から日本語・日本文化の伝達や異文化理解についていろいろなことを実感し、また学ぶことができるものと思います。



体験記

高橋 奏子 & 楊 善媛

チューターは、来国・帰国時には手続きや生活準備、その後は学習補助や悩み相談などをします。しかし私たちは、気になっている飲食店があれば誘って一緒に行くし、そこでプライベートの話で盛り上がるので、チューターというより友達感覚で彼女を手助けしています。交流によって、私自身も得られるものがありました。楊さんは会うたびに台湾について熱心に教えてください。台湾の女子高生の制服の着こなし方や遊び方など、ちょっとした会話の中で日本との違いを発見し、互いに驚くといったことも頻繁にあり、あれは、これは、と芋づる式に質問し合うのが、とても楽しいです。さらに、分かりやすい言葉を選びながら話し、遠回しな表現を避けなるべく簡潔な文にするなど、日日の授業で習った工夫を実践することで、会話で伝えられるものが増えていく経験は、とても嬉しいものでした。

（高橋 奏子）



鎌田真凜 & アニス ザフィラ ビンティ ゾルカプリ

チューターの仕事は主に、来日直後の手続きや生活準備、学習補助や悩み相談です。今年度は新型コロナウイルスの影響でなかなか来日が叶わず、しばらくはオンラインでの交流となりました。その間も、お互いの国のことや日本の音楽や映画について話したり、一緒に勉強したりするなど、とても楽しい時間を過ごすことができました。10月に来日し、直接会えた時はとても嬉しかったです。

チューターになる前は「日本について教えなければ」とも考えていましたが、実際は私の方がザフィラさんから沢山のことを教わっています。日常の何気ない会話から日本とマレーシアの違いに気づいたり、留学生ならではの日本語の捉え方を知ったりすることができ、会うたび新しい発見と学びの連続です。今では留学生とチューターという関係を超えて、とても良い友人として交流を続けています。

皆さんもぜひ留学生と楽しい大学生活を送ってみてはいかがでしょうか。（鎌田 真凜）



留学生

日本語・日本文化学類は、短期留学生・日研生・正規生（JE生含む）など、世界各地から数多くの留学生を受け入れていています。日日の学生は、チューター制度や合同授業等を通じて留学生と触れ合う機会が非常に多く、毎日が国際交流です。

【日日の留学生数】（2014～2021年度）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
短期留学生	30	36	27	21	35	38	3	10
日研生	14	14	6	12	4	1	3	3
正規生（JE生含む）	2	2	4	5	6	3	2	4

※当該年度に受け入れ、入学した人数。2020年と2021年はコロナ感染拡大による入国制限のため受入数減少。

留学生出身国・地域（1990-2021年度）

アゼルバイジャン	インドネシア	カザフスタン	シンガポール	台湾	フィンランド	マレーシア
アメリカ合衆国	ウクライナ	カンボジア	スイス	タジキスタン	ブラジル	ミャンマー
イギリス	ウズベキスタン	キューバ	スウェーデン	チェコ	フランス	メキシコ
イタリア	オーストラリア	クロアチア	スリランカ	中華人民共和国	ブルガリア	モンゴル
イラン	オーストリア	コロンビア	スロバキア	ドイツ	ベトナム	ラトビア
インド	オランダ	サウジアラビア	スロベニア	トルコ	ベラルーシ	リトアニア
			タイ	ハンガリー	ポーランド	ルーマニア
			大韓民国	フィリピン	香港	ロシア

【日研生】

日本語・日本文化学類は、筑波大学の「日本語・日本文化研修留学生（日研生）」の受入組織となっています。日研生とは、日本国政府（文部科学省）の奨学金により、日本の大学において日本語能力および日本事情、日本文化の理解向上のための教育を受ける留学生です。自国の大学で日本語や日本文化に関する分野を専攻としている学生が対象です。



日研生は1年間の留学の成果として修了レポートを執筆します。指導教員や大学院生チューターからのアドバイスを受け、執筆に取り組みます。



最近の修了論文／修了レポート

- 比喩表現からみたJ-Pop（1991-2010）の恋愛表現分析
- 日本語における外来語と和語の使用状況の比較研究 —「キー」と「鍵」を比較するカギー
- 前部要素の2モーラ目に促音を含む短縮外来語形成
- 異文化コミュニケーションにおける日本人の本音の処理 —筑波大学生を事例として—
- 茨城県南地域における動物名・親族語彙と方言意識
- シンハラ語母語話者の聴解学習に関するレビュー —スリランカ人大学生を対象に—
- ポルトガル語の翻訳を通して『雪国』 —登場人物の造形について—
- 外国人日本語学習者の「大丈夫」の知識について
- 日本語と韓国語の歌詞の特徴 —2010年代のK-Popを中心に—
- 日韓における「文化財保護法」の比較 —法隆寺・仏国寺の事例から—

【JE生】

「Japan-Expert（学士）プログラム日本語教師養成コース」の正規生として4年間在籍します。母国の日本語教育の振興に貢献する日本語教師の育成を目的とします。日本語教育インターンシップに参加し、現場での実践力を養います。

海外留学

日本語や日本文化を客観的にながめる目を育て、世界に発信する力をつけるために、ぜひ在学中に一度は海外留学することをおすすめします。一年生のうちから海外留学の時期について考え、準備を進めていきましょう。世界はあなたを待っています！



交換留学制度

筑波大学は、69ヵ国・地域の大学や研究機関とCiC 10協定、大学間交流 173協定、部局間交流 205協定、合計 388協定を結んでいます。(2022.02.02現在)

協定校への交換留学には、さまざまなメリットがあります。

1. 休学せず渡航できるので、計画的に単位を履修すれば4年間で卒業できる。
2. 留学先の取得単位は、一定の条件をクリアすれば卒業単位として互換可能。
3. 各種奨学金制度を利用しやすい。
4. 授業料相互不徴収に関する協定が締結されていれば、留学先の授業料免除。



協定校の一部

中国／北京大学、湖南大学、大連大学、澳門大学 台湾／国立政治大学 韓国／梨花女子大学校、韓国外国語大学校、啓明大学校 インド／ジャワハル・ラー・ネール大学 タイ／タマサート大学 ベトナム／ベトナム国家大学 マレーシア／マレーシア工科大学 オーストラリア／オーストラリア国立大学 カナダ／プリンス・エドワード島大 アメリカ／パデュー大学、オハイオ州立大学 メキシコ／メキシコ大学 ペルー／カトリカ大学 トルコ／ボアジチ大学 イタリア／カ・フォスカリ大学 エストニア／タリン大学 英国／シェフィールド大学 スロベニア／リュブリャナ大学 ドイツ／パイロイト大学 フランス／パリ13大学 ポーランド／ヤギェウォ大学 ラトビア／ラトビア大学 リトアニア／ヴィリニウス大学 ロシア／モスクワ市立教育大学、サンクト・ペテルブルグ大学 ウクライナ／キエフ国立大学 ウズベキスタン／タシケント国立東洋学大学 カザフスタン／カザフ国立大学、ユーラシア国立大学 エジプト／カイロ大学

詳しくは、<https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/ssc-top/ies-top/go-abroad-top>「筑波大 海外留学」で検索！

体験記

養田 朋香【オーストラリア・ディーキン大学】

中学高校で短期留学を経験し、大学では長期での留学をしたいと考え、交換留学制度を利用し豪州ディーキン大学へ留学しました。渡航後は、慣れない生活に苦戦しながらも、新しくできた友人とも助け合い、充実した留学生活を送っていました。

しかし渡航して1か月後、コロナの流行が始まりました。町はロックダウンし、飛行機が止まり帰国できなくなるかもしれないという不安と、一度帰国したら再入国は厳しくなるという状況に悩まされ、帰国か留まるか、決断する毎日でした。そんな中私を支えてくれたのは、同時期に留学をしていた日日の友人や、日日の先生方でした。異国の地で頑張っている仲間と励ましあい、また親身になって相談に乗ってくださった先生方からのアドバイスのおかげで、後悔の無い決断をすることができました。

結果として、渡航2か月後に帰国し、オンラインでディーキン大の授業を受けていましたが、授業以外は英語を使わないことや、オンラインでのコミュニケーションの取りにくさなどもあり、留学を中断することを決意しました。留学中断という形になってしまいましたが、コロナだからこその経験や、人との出会いもありました。

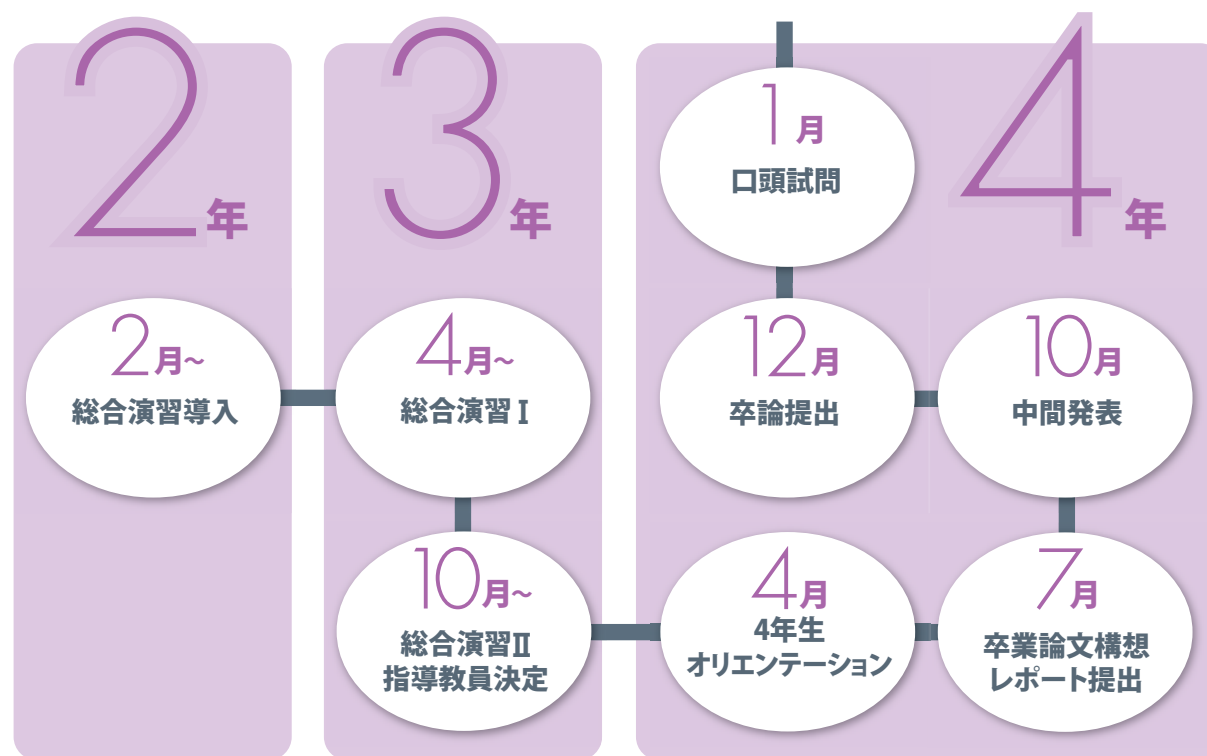
今後も、コロナによる渡航制限が続くと考えられます。そのような状況下でも、大学で行っているオンラインイベントや、日日のチューター制度を活用することによって、国際交流を図ることができます。制限下だからこそ、様々な可能性に挑戦してみてください。日日では、それを応援してくれる友人や先生方がたくさんいます。



卒業論文

卒業論文は4年間の学生生活を締めくくる、大学における学業の総決算と言えます。若い感性でさまざまな吸収してきた滋養を基にして、ひろくアンテナを張りめぐらし「問題」を発見します。その課題の解決法をあれこれと試行錯誤しつつ導き出す過程を、分析的に説明することが求められます。漠然と分かっているつもりのことでも、思考を言語化して説明することは非常に苦しいことです。しかしこの苦しみを通してしか「唯一のもの」の創造は生まれないのです。この創造の実感はずっと皆さんの人生のなかでもっとも充実したものとなるにちがいありません。

論文のスケジュール



卒業論文題目 最近の卒業論文題目(一部紹介)

- SNSに見られる文頭の無助詞名詞句について—LINEとTwitterを対象にして—
- 川端康成『雪国』の原文と英訳文の比較—「自然観」に注目して—
- 企業の採用キャッチコピーの言語表現的特徴
- 北茨城市における方言語彙使用の実態—話者の世代による語彙の理解と使用について—
- 現代日本語テイルの完了用法と時間副詞の共起について—英語の現在完了形との対照を目指して—
- 埼玉県川口市における小学校の日本語指導と初期指導教室—教員へのインタビュー調査に基づいて—
- 戦間期日本におけるドイツ映画受容の変遷—東和商事配給作品を対象として—
- 日本人・非日本人の境界線—日本育ちの「ハーフ」を対象に—
- 日本における桜に対する美意識の萌芽—万葉集と古今和歌集の桜歌を対照して—
- ボリビア・オキナワ移住地に在住する日系人青少年の言語実態調査
- 歴史あるワインの地域ブランド「勝沼」の現在の在り方

昭和63年度からの卒業論文一覧は、HP (<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/theses/>) で、「筑波日日」で検索！

卒業後の進路

日本語と日本文化を総合的に学び、異文化交流にも深い理解を持つ日本語・日本文化学類の学生には、社会のさまざまな分野での活躍が期待されています。その期待に応え、これまでの卒業生は、各々の希望や適性に最も適した道に進んでいます。

主な進路

最新の情報は、<https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>「筑波大 就職」で検索！

一般企業

ここ数年、卒業生の約半数が一般企業に就職しています。職種・業種ともに多岐に渡り、教育サービス業(教材出版販売、教育システムサービス、語学学校、等)、情報サービス業(情報通信システム開発、コンピュータソフトウェア開発、等)、流通・小売業(スーパー、コンビニ、等)や報道・出版業(新聞社、出版社、等)に就職しています。言語・文化両方にわたる視野の広さという、本学類の特質を仕事に活かすことが期待されています。

ベネッセコーポレーション／ホテルオークラ東京ベイ／日本放送協会／中央出版／学校図書／光村図書出版／いなげや／セーブオン／足利銀行／メガネドラッグ／丸井グループ／NTTデータシステム技術／横浜信用金庫／JTB／トップツアー／佐渡汽船／日本郵政／エス・バイ・エル／ヤマハ発動機／関東鉄道／群馬銀行／早稲田アカデミー／富士通／丸紅／あおぞら銀行／第一三共／三井記念病院／エイチ・アイ・エス／日本武道館／マイナビ／エン・ジャパン

教 師

本学類では、中学校・高等学校の国語科の一種教員免許が取得できます。学類生の多くが教員免許を取得し、5～6名が実際に教師になり、言語学的な面に強くしかも日本語教育の素養もあるユニークな国語科教員として活躍しています。

また、卒業後すぐに日本語教師として日本語教育に従事する者もいます。しかし、現在、大学や研究機関などの高等教育機関で日本語教師の職を得るためには、国内外を問わず修士以上の資格が求められるので、日本語教師を目指す人の多くは、学類卒業後、大学院を経て日本語教師として活躍しています。

福島県公立中学校／富山県公立高等学校／長野県公立高等学校／茨城県公立高等学校／山梨県公立公立高等学校／学校法人東京聖徳学園／栃木県公立中学校／埼玉県公立高等学校／宮崎県公立高等学校／静岡県中学校／星野女子高等学校／群馬県公立中学校／明星学園高等学校

国立研究開発法人・独立行政法人

国際農林水産業研究センター／環境再生保全機構

公務員

幅広い教養と広い視野を身につけて、公務員(県庁・市役所職員、裁判所職員、等)の道に進む卒業生も毎年数名います。

総務省／文部科学省／厚生労働省／茨城県庁／茨城県警察本部／東京都庁／福島県庁／愛媛県庁／佐賀県庁／広島県警本部／つくば市役所／土浦市役所／成田市役所／沼津市役所／静岡市役所／豊橋市役所／仙台市青葉区役所

進学・留学

学類での勉強の後、さらに専門分野の研究を続けたい場合、また、修士や博士の学位を得てより高次の専門職につきたい場合は、大学院に進学することになります。語学力を高めたり、さらに専門的な知識を深め、実践的な経験をつむために海外の大学・大学院に留学する人もいます。

大学院修了後の就職先は、国内大学教員では、筑波大学、東京大学、首都大学東京、群馬大学、広島大学など、海外大学教員では、中国の大連大学、韓国の興信大学、イタリアのカターニア大学など、世界中で広く活躍しています。

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院
人文社会科学研究群

- 人文学学位プログラム：歴史・人類学サブプログラム、文学サブプログラム、言語学サブプログラム
- 国際公共政策学位プログラム
- 国際日本研究学位プログラム

筑波大学大学院人間総合科学学術院
人間総合科学研究群

- 教育学学位プログラム：次世代学校教育創成サブプログラム(国語教育領域)、国際教育サブプログラム

筑波大学大学院理工情報生命科学学術院
生命地球科学研究群

- 地球科学学位プログラム

北海道大学／大阪大学／東京外国語大学／東北大学／早稲田大学

海外 英国ノーザンブトン大学大学院

先輩の声

丸山 陽菜(愛媛県立今治西高等学校国語科教員)



「古典って役に立ちますか？」私は現在、高校の国語教員として働いているのですが、生徒からこんな質問をよく投げかけられます。英語や科学などに比べて、文学を学ぶ意義は目に見えにくいの

かもしれません。私はこの質問に対し、「古典学習は、異文化交流なんだよ。」と返答しています。これは、日日での学びを通して、私なりに探し出した答えです。

在学中、私は異文化に触れる機会に多く恵まれました。チューターをしたり、マレーシア実習に参加したり。多様な背景や価値観を持つ人々対話することによって、私の中で凝り固まっていた「当たり前」は何度も崩れ落ちました。日日で自分自身や「日本」を客観的に見つめ直してみようと試行錯誤した経験は、視野を広げる上で本当に大切だったと感じています。先人の思想が詰まっている古典も、現在の考え方を相対化するための「異文化」になり得るのではないかと思います。未来を担う生徒たちには、自分の「ものさし」を絶対視せず、多角的に物事を考え、寛容な姿勢で他者と関わるができるようになって欲しいです。まずは、古典の面白さ、学ぶ意義に気づいてもらえるように頑張りたいです。

津田 有沙(東京都港湾局臨海開発部)



在学中、米国で1年間日本語を教えた経験を元に、バイリンガル教育における学習への動機付けについて研究し、現在は地方公務員として働いています。日日での学びを通して多

角的な視点で物事を冷静に捉え、実行する習慣が身についていたからこそ、満足できるキャリアを築けていると実感しています。これは、留学生を含む同級生、海外日本語教育実習先の先生や学習者と、日本語や日本文化について複数の視点で改めて考え、議論を深めた経験から得た、意見を受け入れつつも着実に実行していく力が活きています。港湾局では埋立地の管理を担当し、最近では選手村の整備等のオリンピック関連の業務を行っています。他部署や外部との調整が日常的に発生しますが、他者の意見を尊重しつつも、自分の考えを適切に伝え、課題を解決していく能力は、日日で自然と培ってきたものです。座学だけでなく、国内・海外に実践の場がある日日での学びは、私の人生を豊かにしてくれたと確信しています。

川口 温子(学校法人滋慶学園東洋言語学院)



東日本大震災の大きな影響を受け、留学生がみんな国に帰ってしまった2011年4月、私は、東京にある東洋言語学院で、日本語教師としてデビューしました。それまで国語教員をし

ていた自分の経験は全く役に立たず、日本語を教えることはなんと難しいのかと悩む日々。大学で身につけた「学ぶ習慣」を抛り所に、新しいことを学んでいきました。「教えることが仕事じゃない、学生達の成長をサポートしていく環境づくりが私の仕事なんだ。」母校で学んだことも同じだったかもしれません。これから社会に出ていく学生たちにどんな力が必要なのか、先輩や上司と何度も話し合い、1年後には私たちの考えを反映させたユニークな教材が完成しました。それから8年、今、目の前には37ヵ国600名の学生がいます。私の仕事も、オリジナル教科書作製、海外の教育機関とのネットワーク作り、日本語教師養成講座の開設、地域の人々と外国の人々との理解を促すイベントと、拡がっています。多文化社会への貢献。これが今の私の仕事です。

五十嵐 理紗(株式会社リブセンス)



大切なのは正解を見つけることではなく、“何がそうさせるのか”を理解すること。私は現在、一般企業の人事担当として社員や就活生の人生に向き合う仕事をしています。働く上で強

く感じるのは、様々な立場の人が意見を交わし、より良いものを作り上げるには、衝突や摩擦は避けて通れないということです。同時に、“絶対的な善悪”はないと気付かされます。では、私達にできることは何か。互いの関係を隔てるものは何なのか？何がそうたらしめるのか？背景に目を向け“違いを理解することが、人と人が手を取り合い共に生きていく上では重要ではないでしょうか。日日学類は、日本人が育んできた文化や言語に目を向け、その背景で生じる環境の変化や思考の本質に迫る学類です。正解ではなく、背景や行間を極める学びは、1人の人間として生きていく上で多くのヒントを得る貴重な経験となりました。「あなたの中にかこる感情は、何がそうさせるのか？」と私は今日も問いかけながら、より良い社会を模索しています。



まだまだ知りたい 学類Q&A

学 習 編

Q どんな授業がありますか？

A 一般的に、先生方が授業の趣旨にそった内容について「講義」をする光景が思い浮かぶと思いますが、他にも「演習」や「実習」などがあります。

「演習」とは、各自に時間が割り当てられ、学生が発表していく形式の授業です。ある事柄に対して自ら疑問を持ったテーマについて調べ、考察し、その成果を授業の中で発表するというものです。個人発表やグループ発表など形態は様々です。多くの文献にあたったり、分析力を身につけられるので、研究することの楽しさを実感できるでしょう。

「実習」とは、現地に出かけて調査を行ったり、実際に教壇に立って日本語を教えたりする、いわば実践型の授業です。海外の教育機関で研修をしたり異文化交流をしたりするものもあります。机上の学問だけでなく、実際に現場を見たり、経験したりすることで、新たな視点を切り開いていくことができます。

Q 外国語には何がありますか？

A ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語から1つ選択し2年間学ぶ「初修外国語」が必修科目です。さらに語学の実力を付けたい場合は、2年生以降、各言語の中級や上級を履修することもできます。もちろん英語も必修科目で、2年生では、より高度な内容を扱い、実践力をつけていく「専門英語」もあります。

Q 大学図書館について教えてください。

A 筑波大学図書館は、全国有数の蔵書数を誇り、毎日、多くの学生や教員が学習や研究に利用しています。館内には個室の自習室や勉強会用セミナー室も多数あります。また、自宅からでもオンラインで、文献情報の検索や貸出予約・延長ができたりします。多数のデータベースへのアクセスや他の大学図書館との相互貸出も行っており、高度な研究のためには欠かせない存在です。

Q 海外日本語教育実習は誰でも参加できますか？

A はい。「日本語教育国際研修」の標準履修年次は2～4年生で、例年、ほぼ希望通りに参加することができています。とはいえ、いきなり日本語を教えることは難しいので、他の日本語教育に関する基礎的な授業でしっかり学んでから挑戦することが望ましいでしょう。応募多数になった場合は、それまでに履修した科目や成績が選考基準となります。

Q 他学類の授業は履修できますか？

A 日本語・日本文化学類の授業だけでなく、他のどの学類でも自分の興味のある授業を自由に受講することができます。ただし、卒業単位（124単位。JE生は135単位）として認められる他学類の授業単位数には、上限があります。

Q 試験はどのように行われますか？

A 試験の形式は、授業によって先生によって様々です。普通のテストのような形式だけでなく、自分の考えを論理的にまとめる形式のものもあります。必ずしも明確な「正解」はなく、自分の考えを、筋道を立てて述べられるか、ということも問われているのです。レポートが課されることもあります。授業と関連のあるテーマが設定され、それについて自分なりに調べて分析するものや、授業内容に関する自らの考えを述べるものなどです。

Q 教員免許を取得したい場合はどうしますか？

A 教員免許を取得しようとした場合、「教職に関する科目」を多数履修する必要があります。さらに、「教科に関する科目」も必要ですが、国語（中学校・高等学校教諭一種）の場合、日本語・日本文化学類の開設科目から履修すれば、卒業単位としても教職単位としても認められるので、それほど大きな負担とはなりません。実際、日日の多くの学生が教員免許の取得を目指しており、国語教員免許取得率は、全学で日日が1位です。

生 活 編

Q 学生宿舎について教えてください。

A 新入生が優先的に入居できるよう配慮された施設です。毎年、1年生の多くが入居して新しい大学生活をスタートさせています。学生宿舎はいわゆる「寮」とは違い、管理は学生自身に任されています。そのため門限や規則ではなく、常識とモラルの範囲内で自由に生活することができます。入り口には認証システムがあり、セキュリティは万全です。なお、宿舎ではトイレ、炊事場、洗濯室はフロア共用になります。コインシャワーもあります。居住棟の近くには共用棟があり、食堂、浴場、コンビニ、理容等が配置されています。水道代、ガス代は不要で、電気代のみ支払いますが、格安です。2年次以降も入居したい場合は、希望者による抽選になります。

Q 留学生との交流について教えてください。

A 筑波大学にはグローバル・ヴィレッジという一般学生と留学生のシェアハウスタイプ型の学生宿舎があり、留学生と生活を共にすることができます。また、日日には多くの留学生が在学しており、チューター制度を利用したり留学生交流パーティーなどに参加したりすることで、授業以外にも多くの留学生と交流することができます。

Q 大学には、他にどのような施設がありますか？

A **書籍部**：書籍や文房具などを全て割引価格で購入することができます。

大学会館：郵便局、コンビニ、旅行会社、画材店があります。

保健管理センター：内科・整形外科・精神科の診療を、学生証を提示することで安く受けられます。また、必要に応じて他の医療機関を紹介してもらえます。

そのほか、日日授業棟の中には、録音実験に使える防音室、教育実習で使うマジックミラーの部屋と観察室、学生控室や資料室もあります。また、日日学類関係の部屋として、話し合いに使える畳張りの和室や、教室の一角に障子と床の間の茶室もあり、ここで茶道を学べる授業もあつたりします。

Q どんな食堂がありますか？

A 筑波大学には様々な食堂があり、定食やカレー、パスタ、そば・うどん、パン屋など、構内だけでも20近い食堂を利用することができます。いずれの食堂でも300～500円程度で食事ができますので、いろいろ巡ってみて、自分の好きな食堂を見つけてみるのもいいでしょう。夜遅くまで営業しているお店もあるので、夕飯やサークル前の腹ごしらえに利用している人もいます。

Q 学内でパソコンを利用することができますか？

A 筑波大学では、全学計算機システムのサテライト室（コンピュータ室）が、図書館や学群棟（講義棟）の各所に配置され、学生はそのどこでも同じようにパソコンやプリンタ、スキャナを利用することができます。また、学内無線LANシステム、学生宿舎LANシステム等の設備も充実しており、宿舎でも無料でインターネットを楽しむことができます。なお、メールアドレスが学生全員に与えられており、学外からチェックすることができます。

Q 学生の交通手段は何ですか？

A ほとんどの学生が自転車を利用します（このページの背景をよく見てください）。大学周辺には宿舎やアパートが多数あり、お店も多数点在するので、自転車があれば不自由のない生活が送れます。中には自動車やバイク等を利用する学生もいます。自動車所有率は、他大学より多いかもしれません。学内移動やつくば駅までは、大学循環バスを利用する人も多いです。つくば駅から秋葉原へは、つくばエクスプレスが最短45分と早いですが、大学から東京駅まで行く高速バスも出ています。

Q サークル活動には、どんなものがありますか？

A 筑波大学公認のサークル活動には、大きく分けて「体育会系」「文化系」「芸術系」の3つがあります。

体育会系サークル：サッカーや野球、テニスといったメジャースポーツから、ヨット、ライフル、アーチェリーまで、様々なサークルが活動しています。

文化系サークル：茶道、映画、将棋から、社会福祉系サークルまで、様々なサークルがあります。

芸術系サークル：オーケストラ、アカペラ、合唱、津軽三味線といった音楽系のものや、舞踏、絵画、焼き物、写真といったものがあります。

入試案内

【入試の詳細】

最新情報は、大学や学類のホームページをご覧ください。

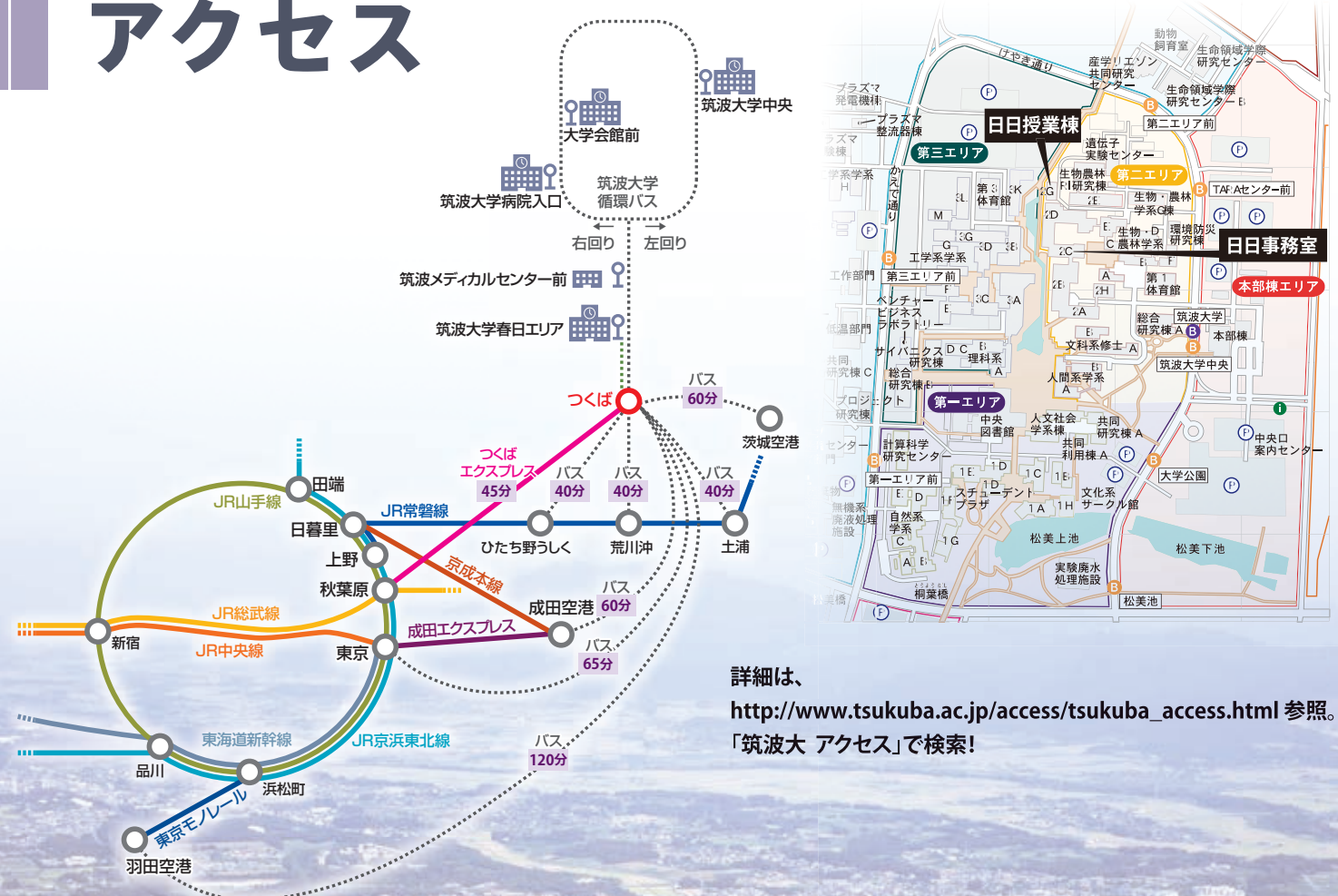
筑波大学ホームページ <http://www.tsukuba.ac.jp/>

日本語・日本文化学類ホームページ <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

【受験生のための筑波大学説明会】

毎年7-8月頃に筑波キャンパスで「オープンキャンパス」が、3月末に「春の進学説明会」が行われます。
詳細は、日本語・日本文化学類のHPをご覧ください。

アクセス



伝えたい日本がある。



編集後記

コロナ禍2年目にあたる2021年度は、昨年度同様授業も学生の日常生活もノーマルから程遠いま終わろうとしています。キャンパスに人影はまばらです。そんな中、2年生向けの卒業研究に向けた「総合演習導入」が2月初め、終日対面で行われました。左の写真はその時の一コマです。2年生全員が集まるのはこの時が初めてです。例年ならばこの学類パンフレット作成も2年生主導でしたが、コロナ禍ということもあり、教員が担当することになりました。本学類のいまを身近に感じてもらえればと思っています。

日本語・日本文化学類広報委員会



筑波大学 人文・文化学群

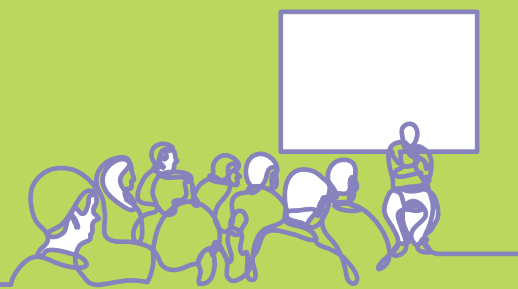
日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture
School of Humanities and Culture
University of Tsukuba

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-6764

FAX 029-853-6839



つくば にちにち SEARCH



<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>



<http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



@Nichinichi

